市長と語ろう！ほっとおしゃべり会@下庄公民館　結果概要

日　時　令和８年１０月２７日（火）午後２時～３時１０分
場　所　下庄公民館
参加者　市民　１１名

結果概要
１　あいさつ（市長）

２　趣旨説明（竹田室長）

３　災害時の避難行動と新たな気象情報について説明（市長）

４　意見交換（フリートーク）

①市長へお願い

参加者：市長がいろんな会合で顔を出して話をしてくれたり、褒めたりしてくれてありがたい。一方で、褒めるだけではなく、大局的に見たときに私たちがやるべきことを指導や助言をしてくれると嬉しい。

市長：ご意見をいただき感謝する。

②木瓜川について

参加者：下プロで木瓜川を使ってダックレースを開催している。１週間前にはクリーン作戦として、川の中の草を人力で取り除いているが、年々川幅が狭くなっているように感じ、地域だけでの作業では対応が難しくなっている。
土木工事などによって川の土砂や草を取り除いてもらいたいのだが、どこに相談すればよいのか、どのような手続きをするとよいか教えてほしい。

参加者：私の家は木瓜川のそばで、川には背の高い草が生えている。川の水が増えると不安になる。以前土木事務所に相談したら、除草する約束をしてくれた。後日重機できれいに草を取ってくれた。しかしそれは２年前のことで、現在は元に戻っている。個人でお願いしてもダメなので、配慮してほしい。

市長：川幅が狭くなっているのは、泥が堆積しているからである。川幅が狭くなると、災害の危険性が高まることがある。市が管理する河川もあれば、県が管理する河川もある。ここ５年くらいで県も市も頑張って泥の除去を行っている。２年前に声を掛けてくれたのは、予算もついて、県が除去しようとした時期であったと思うのでタイミングが良かった。赤根川は、下流は県が管理、上流は市で対応している。今年度と来年度も県と相談しながら計画的に実施する予定である。順番があり、すぐ対応できるとは限らないが、また声を掛けてほしい。

③集会所の今後と地域コミュニティの維持について

参加者：集会所が廃止されるという話を聞いて驚いた。

集会所は、地域の人が集まり、交流するための大切な場所。もし集まる場所がなくなれば、地域のつながりが弱くなってしまうのではないかと心配している。

市が管理する施設についても、市内全体で公平に考える必要があると思うが、地域のコミュニティを維持するという観点も大切にしてほしい。

参加者：集会所を潰すという計画が進んでいるという話があったため、市長は大野市を今後どのような市にしたいのか伺いたい。

子育て世代の補助は充実しているが、若者は減り高齢者が残っている。高齢者がどのようにして地域のコミュニティに参加できるのか。自力で家から出られない高齢者をどう支えあうのか。横のつながり、地域のコミュニティが大事だと思っている。

市長：集会所を潰すということではなく、地域の集会所には、市が所有するもの、自治会が所有するものがあり、それを村部では整理してきた。その話がまちなかや下庄地区まで進んできたということである。

市の行政的な機能は廃止する方向であり、その建物をどのように使うのか、地域のために生かしていくのであれば、地域の方々（自治会）に譲ることもある。自治会に譲る場合、建物の登記などを行い、団体としてきちんと組織が成り立つところについては、何年か期間を設けさせていただいて一時借用という形を取りながら、譲渡への道を探る方法もある。

一方で、これ以上あっても維持管理が大変だという地区も実際に少なくない。そうした地区については、市で整理（廃止など）をしていくという方法をとっている。

今までずっとあると思っていたものがなくなるのではないかという突然の不安感や、心配なのに十分な情報が入ってこないといった不安など、さまざまな不安を感じられていることと思う。そんな不安を少しでも解消できるよう、正確な情報がしっかり伝わるように努めていく。

④獣害対策と地域間や行政との連携について

参加者：獣害対策に取り組んでいる。最初のころは、農地にイノシシが出没していたが、現在はシカが出没する。シカは繁殖力が強い。クマの出没も大変な事態となっている。

これらを防ぐためには、電気柵と緩衝帯をセットにする。組み合わせて対策することで、獣の出没をほぼシャットアウトできる。見通しのよい場所を作ると獣が来なくなる。しかし、１つの集落だけで対策してもほかの集落や、周辺から獣が入ってくる。集落の域を超えて、みんなで協力して大野盆地全域で緩衝帯などを作っていきたい。

市長：発言者の集落が田んぼや森林の管理がしっかりしてくれているおかげで、獣が盆地まで出てこない。

参加者：獣害対策に、まちうちの人や行政も協力してほしい。
参加者：私の集落も補助金を活用して、背の高い電気柵を設置する予定である。まずは、隣同士の集落で協力していけたらいいと思う。
参加者：横へ広げるのは難しい。市もバックアップしてほしい。協議の場に市が入って仲介してほしい。
市長：市は有害鳥獣対策全般について、バックアップしている。集落で対策を行った結果、獣の出没が減少した事例を他の地域にも紹介してもらえると、取り組みが広がっていくかもしれない。

⑤おしゃべり会について

参加者：良い取り組みであったので申し込んだ。実施時期について、もっと早くに実施してほしかった。今後は、もう一歩進めて、町内、集落単位で回って市民の声を聴いてほしい。本来は市議会議員の仕事かもしれないが、市長にお願いしたい。
市外の友人から、大野市はいいところ、雪が降らなければもっといいのにと皮肉を言われる。我々は３８豪雪や５６豪雪を経験しており、孤立するということを過剰に心配してしまう。中部縦貫道が通行止めのときも孤立するのではないかと不安になる。また、夜居酒屋で酒を飲んでもタクシーが無くて帰れない。勝山や福井のタクシーを大野市まで走らせるなど、少しでも不安をなくしてほしい。
市長：今回のような形で、おしゃべり会は今後もできる限り続けていきたいと思っている。

⑥大学との連携や若い世代を呼び込む取り組みについて

参加者：長いこと大野市に住んでいると大野の良さやいいところが分からなくなる。中部縦貫道で小矢戸から入ってくる大野の景色が好きである。また、阪谷からの景色も好きである。勝山市にホテルができるが、個人的に阪谷にホテルができるといいなと思う。
また、将来奥越明成高校を市で買い取って、サテライトキャンパスとして活用できないか。関西大学などの大学と連携協定しているところに協力してもらうのはどうか。サテライトキャンパスを設けることができれば、１０年、２０年先の地域づくりにもつながる。
市長：関西大学には現在、空き家や空き建物を生かして若者を呼び込むことについて、応援していただいている。また、大学連携については、関西大学のほか、福井大学や県立大学とも結んでいて、一緒に事業を行うことで、学生が大野を訪れている。関西大学はもう一歩進んでいて、大野市で活動すると単位が取得できるようになっている。奥越明成高校の施設を市が取得するとなると、税金を使って施設を管理しなければならないので、最終的に負担は市民に返ってくる。市民からいただいた税金を有効活用しなければいけない。公共施設をすべて同じ形で維持していくのは難しい。

⑦災害時の要支援者の安否確認について

参加者：８月の大雨の災害では、市内で１０９名が避難した。家族に介護認定４の車いすでしか移動できない家族がいるため、要支援者の避難支援プランを市に提出したが、今回レベル５の緊急安全確保が出たにも関わらず、安否確認がなかった。最大のレベルでも安否確認がなく、なんのために書類を作ったのか疑問である。

市長：この件については、担当課から連絡をさせていただく。要支援者の避難支援プランは、支援が必要な方を把握し、状況に応じた対応を検討して作成を進めている。支援の方法は一人一人違う。今回は、防災担当なのか、福祉担当なのか、もしくは両方なのか、担当を確認して連絡させていただく。

参加者：共有している人は、区長やその地区担当の民生委員などで、今回の大雨の時は、安否確認してほしいと緊急連絡通知が回ってきた。ある地区では、１人で７つの集落を担当している人もいるので、手が回らなかった可能性も考えられるのではないか。

⑧災害時の情報発信や避難所などについて

参加者：大野市公式 LINE や「広報おおの」などで災害情報を発信してもらえるのはありがたい。福井街角放送と災害時における臨時災害放送局開設に関する協定を締結しているので、地域の声や災害情報を市街地から和泉地区まで広く伝えられるよう、大野市にもコミュニティ FM があるとありがたい。

また、私は障がい福祉施設で過ごしていた。災害時、知的障がい者や精神障がい者が公民館などの避難所で過ごすことができるか、生活できるかが不安である。

市長：ラジオ局の開設について、話はあったがなかなか踏み込むのに勇気がいるが、アイデアを出していただいたことに感謝する。

障がい者が避難所に行った時の注意点などは、ケアマネージャーを通じて、その人に合うものを作るようにしている。介護認定が高い方については、福祉避難所に案内することもある。最近の避難所では、仕切りを入れたり、テントで目隠しをしたりと形はさまざまになっている。

⑨その他

参加者：市長の選挙公約で中部縦貫道が開通したら、大野市と名古屋を結ぶ高速バスを走らせるとあった。そういった夢のある話や明るい話はどんどん進めてほしい。

市長：承知した。頑張る。

参加者：各集落の自主防災組織はうまくいっているか。若い人が関心を示さない。平成３０年に名簿を提出してから更新していない。行動もバラバラである。どうするとみんなに関心を持ってもらえるか。

参加者：私の集落の例を出すと、名簿はあるが、データは古いままである。私が防災

士の資格を取り、集落で避難訓練を行ったり、講和みないなことを行ったりしている。やるかやらないかは各集落次第である。

市長：今回、各集落の課題や相場観が共有できて不安が減ると思うので、話をしていただきありがたい。

5　閉会